

あまから手帖2025年3月号「洋食♡（ラブ）」を2月21日、発売致しました。

2025年3月



Daigas グループのクリエテ関西が、あまから手帖 2025 年 3 月号「洋食♡（ラブ）」を 2 月 21 日、発売いたしました。

いつの時代も、ご馳走として、幸せな気持ちにさせてくれる洋食。誕生日などの記念日や、入学や卒業祝い、ひと仕事終えた時のご褒美など、さまざまなシーンで重宝されるのは、ずばり、バリエーション豊かなメニューにあります。ハンバーグにオムライス、ビーフシチューにグラタン、ナポリタンにピラフまで。みんな大好きなメニューを一堂に。京都の町洋食や神戸の新店、ミナミの老舗など、関西各エリアの特色と共に、洋食の今を紹介します。

#### <特集構成>

- 過ぎ去った時間はかくも美味しく美しい 洋食の思い出
- 大切な人といつもの時間を「cook knoll」で 小さな「ファミレス」の物語
- いま、会いにゆきます。 前略、オムライス様
- スペシャリテという勿れ あの店の、この一皿。
- 西脇にある御馳走「むさし」 日本の中心にビフテキを食べに行く。
- 2025年で68歳になりました。 大津の「アケミ」のこと。
- 受け継がれる「ドゥミグラスソース」 グリルミヤコとミナト神戸。
- ハンバーグの快樂「京都&神戸」 愛しさと肉汁とデミグラスソースと
- 艶やかなニッポン生まれの洋食クイーン オーサカ・ナポリタン・ラブソディ
- 家族でつなぐ茶色い宝 京都の町洋食
- これからもハイカラ 神戸の洋食「新しい地図」
- なんばから心齋橋、長堀橋と ミナミは「洋食の帝王」
- 緒方博行さんに聞きました。「洋食おがた」の新・洋食考。

<創刊40周年記念企画>

- 「秋鹿酒造」と醸す『あまから手帖』40周年記念酒 日本酒を造る。

<連載>

- 作家・町田 康の「食にかまけず」
- 写真家・長野陽一の「あま、から」
- 料理研究家・冷水希三子の「からから料理帖」
- マスターソムリエ・岡 昌治の「日本ワイン、ようわからん」
- フードコラムニスト・門上武司の『関西「揚げもん」研究所』
- ミルクボーイ・駒場 孝の「こまから手帖」

<媒体概要>

「あまから手帖」は関西の食文化・情報を伝える雑誌として30代後半～50代の方を中心に  
ご好評いただいております。

誌名：あまから手帖 発売日：毎月23日 発行部数：10万部

販売方法：書店・駅売店・コンビニエンスストア（一部）

販売地域：関西全域および全国の主要都市（一部） 価格：880円（予価）

※本誌に関するお問合せは下記までお願いできましたら幸いです。

※各種取材、メディア出演にもご対応致します。